

令和 6 年度 特別の教育課程の編成の方針等について

埼玉県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
戸田市立戸田第二小学校	戸田市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市では、これまで小学校第 3・4 学年において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減した「英語活動」を設定してきた。また、第 1・2 学年でも「英語活動」を学校教育法施行規則第 51 条に定められる授業時数以外で年間 20 時間程度実施し、成果を上げてきた。

新学習指導要領の完全実施を見据え、新たに、これまでの取組をさらに発展させるため、以下の内容で取り組む。

- ① 小学校第 3・4 学年において、現行の 35 時間実施している英語活動に、総合的な学習の時間を年間 35 時間削減し、35 時間を加えた英語活動を実施する。
- ② 本市の研究組織である戸田市英語教育研究推進委員会は、①の時間を活用し、コミュニケーション能力を育成するためカリキュラム及び教材を研究・開発する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、以下のようなニーズに応えるため、市内全小学校が教育課程特例校として、「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、英語活動をとおして、グローバル力と異文化力を育成する。

- ① 小学校低学年段階から言語活動に慣れ親しませることによる、小・中学校英語教育の充実や、英語によるコミュニケーションを主体的に図ろうとする児童生徒の育成。
- ② 中学生海外体験派遣事業（主催 戸田市国際交流協会）等、国際交流事業への参加促進や、異文化を受容したり異なる文化をもつ人々と共生したりする意識の醸成。

(3) 特例の適用開始日

平成 15 年 4 月 1 日 特例の適用開始

平成 21 年 4 月 1 日 変更

令和 2 年 4 月 1 日 変更

(4) 取組の期間

令和 12 年 3 月 31 日まで

2. 特別の教育課程の実施状況

- ・ 小学校 3・4 年生において「総合的な学習の時間」を年間 35 時間削減し、その時間を英語活動として実施した。（週 1 回の 45 分授業と週 3 回の 15 分モジュール授業）
- ・ 45 分授業とモジュール授業がつながる単元構成を工夫した。
- ・ 45 分授業では A L T と連携し、「ふれる・なれる・親しむ」という流れでコミュ

ニケーションに慣れ親しませながら、自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成した。

- ・戸田市英語教育推進委員会が開発した Can-Do リスト改訂版を活用しながら、学習到達目標を児童が達成できるよう支援した。
- ・3年生以上の外国語専科を設定し、系統性もより意識した指導を実施した。

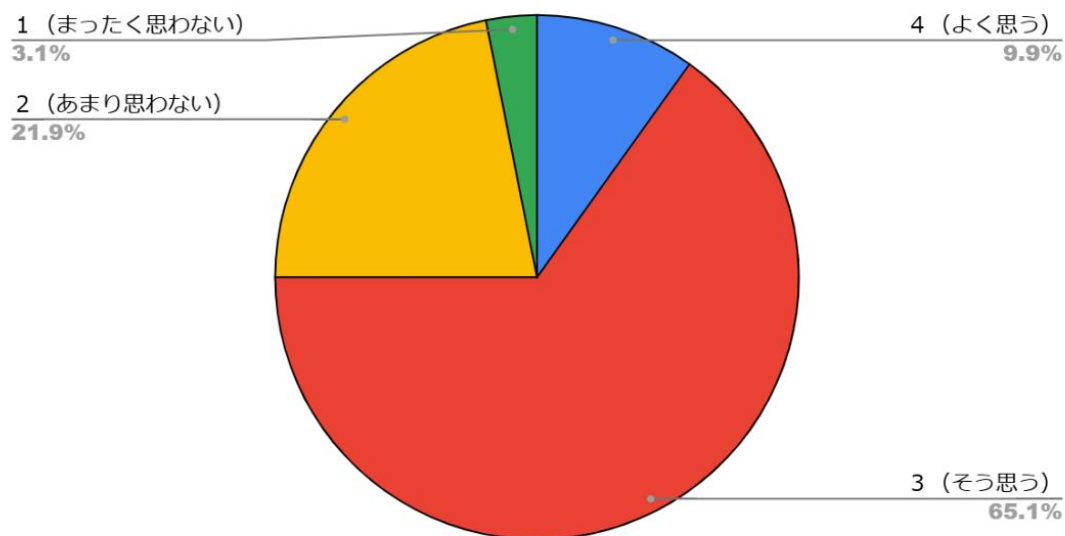
3. 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・学校だより、ホームページ等を活用して、英語活動の様子を情報発信した。
- ・保護者会や学校運営協議会でも英語教育の取組を紹介した。
- ・戸田市の広報紙や広報番組「ふれあいとだ」にも、英語教育の特集が組まれたので、市民へ情報発信した。

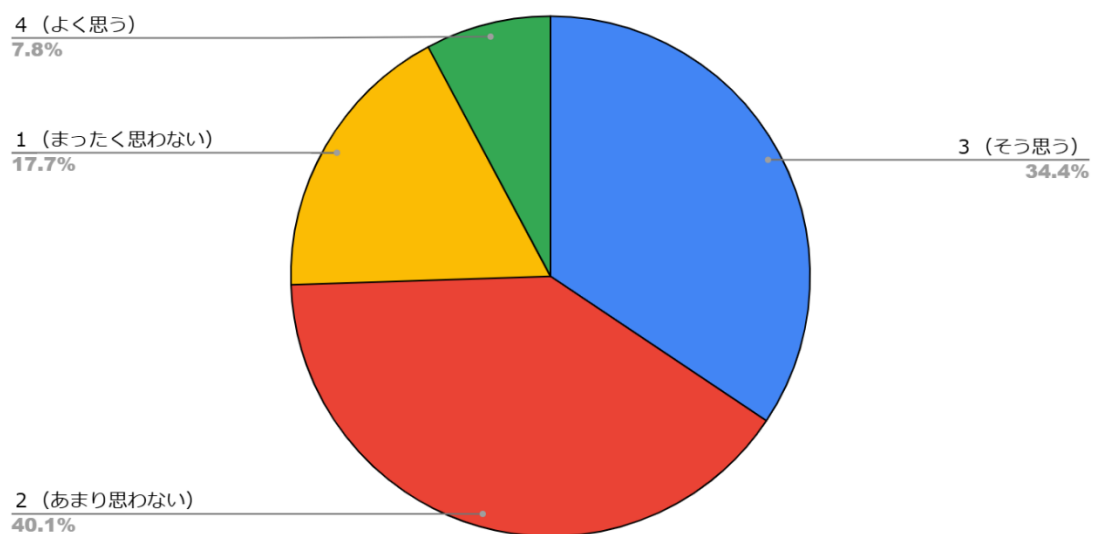
4. 実施の効果及び課題

特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係
本特例は「世界で活躍できるとだっ子の育成」を目指し、小中一貫の英語教育をと
おして、グローバル力と異文化力を育成するため、コミュニケーション教育を推進
するものである。また、英語活動で意識している「4つのコミュニケーションルー
ル」(アイコンタクト・クリアヴォイス・スマイル・グッドレスポンス)の効果が、
人権意識の向上や豊かな心の育成によい影響を与えている。

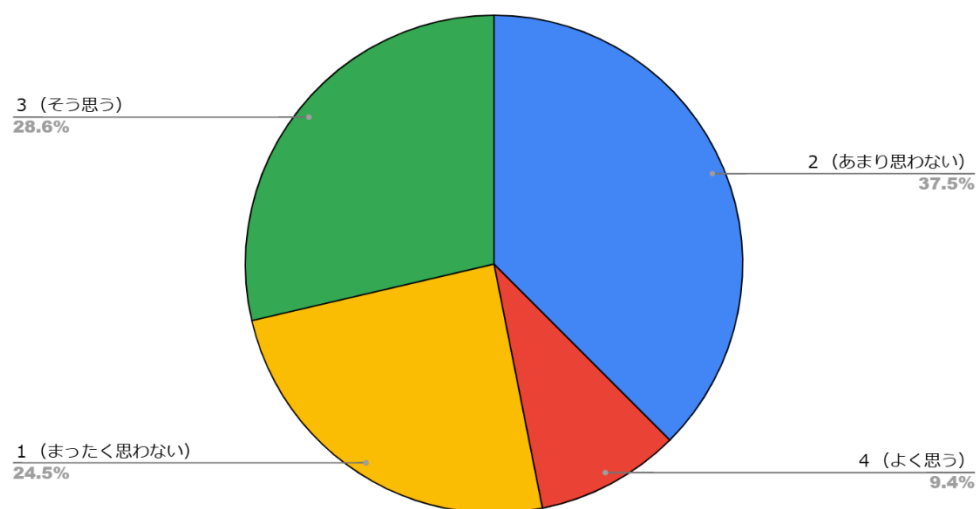
「1 本校は積極的に英語活動を推進している。」のカウント数



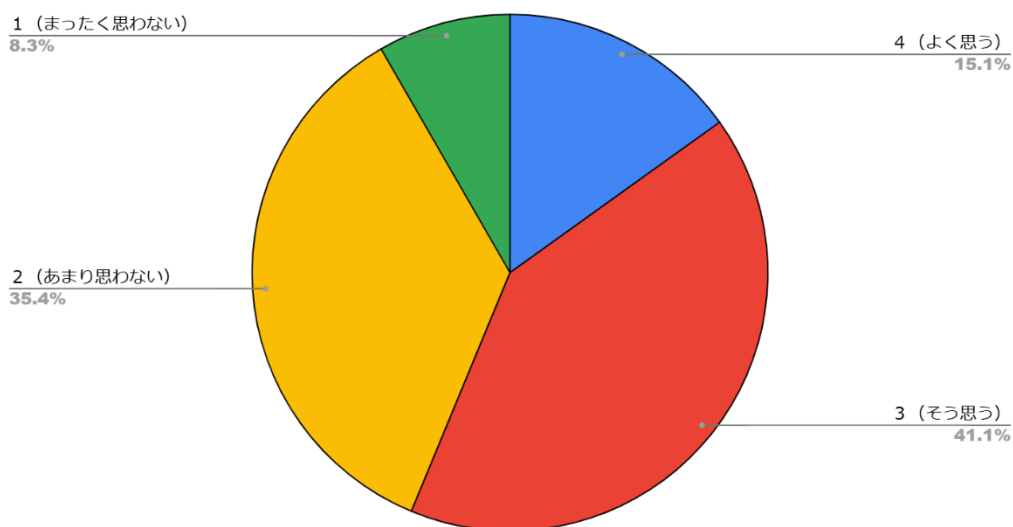
「2
 お子様は、学校の英語活動の様子について、話したりしている。」のカウ
 ント数



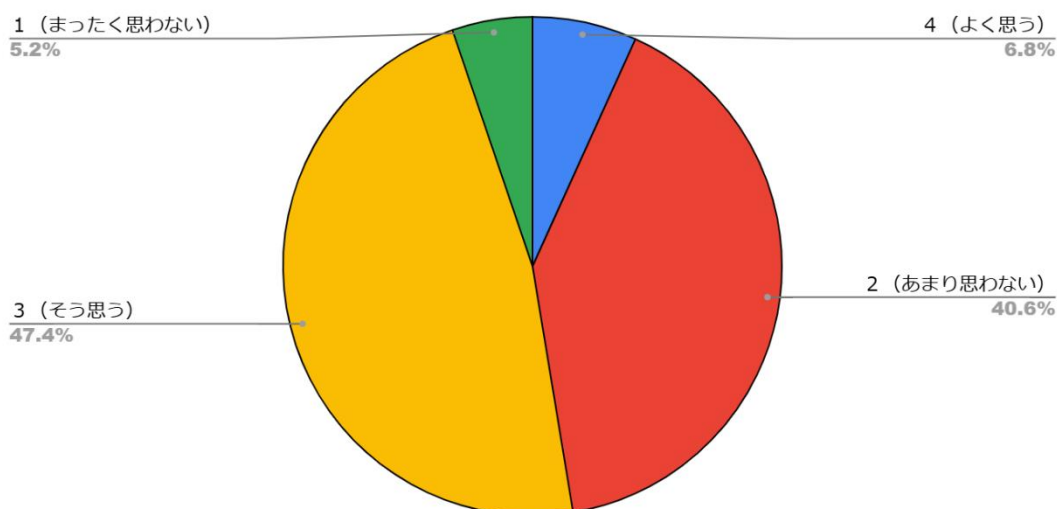
「3
 お子様は、御家庭で時々英語を使って話そうとしている。」のカウント数



「4
お子様は、日本や外国の文化に興味・関心を示している。」のカウント数



「5
本校の英語活動は、児童のコミュニケーション能力の育成に役立っている。」のカウント数



アンケート結果から、ねらいとしているコミュニケーション能力の育成に「役立っている」「日本や外国の文化に興味・関心を示している」と感じている保護者が半数以上いる結果となった。しかし、「家庭で学校の英語活動の様子について話したりしている」「家庭で時々英語を使って話そうとしている」に関しては半数を下回る結果となった。ここから、学校での学びが家庭など学校外への学びにつながっていない、学校での様子が家庭に十分伝えられていないという課題がある。

課題を踏まえて、今後は学校外へも学びが広がる授業展開にしたり、家庭学習に英語を取り入れたり、授業参観・懇談会等で授業の様子を伝えたりと保護者へ活動の様子が伝わるようにしていく。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、英語を通じたコミュニケーション教育を推進していく。